



りんご特報・号外

令和7年6月17日

J A中野市園芸課

J A中野市りんご・もも部会

「輪紋病」^{たんそ}「炭疽病」対策 特別散布について

◎梅雨入り（関東甲信）：6/10 平年 6/7 昨年 6/21 *昨年よりも11日早い。

昨年発生が多かった「輪紋病」「炭疽病」などの腐敗性病害は、主に梅雨期に感染拡大します。

梅雨の多雨（定期散布間に累積100mm近い降雨があった場合など）により病害感染が心配される場合は、下表からいずれかの薬剤を選択し、定期散布間に殺菌剤の特別散布を実施して下さい。

散布時期：6月下旬～7月中旬

薬剤名	倍率	使用時期	使用回数	注意事項
トレノックスフロアブル	500倍	収穫30日前まで	5回以内	使用時期注意(早生種)
キノンドー顆粒水和剤	1000倍	収穫14日前まで	4回以内	汚れ注意
オーソサイド水和剤80	800倍	収穫前日まで	6回以内	使用回数注意(*1) 7月中旬特別散布 (次回特報記載予定)
ICボルドー412	30倍	—	—	汚れ注意

(*1)・・・オーソサイド水和剤（成分：キャプタン）を含む農薬（オキシラン水和剤、ダイパワ水和剤、アリエッティC水和剤等）の年間使用回数は合計6回以内です。

薬剤散布について（チェックポイント）

- 薬剤散布は、死角無くかかっているか？
- 薬液がしっかりと対象作物に付着しているか？
- 薬剤散布量にゆとりをもつて散布しているか？
- 枝が混んでいて薬液が当たりにくい場所はないか？
⇒ 年間通して、管理作業中に病気が発生しやすい（発生している）場所にテープ・スプレーなどで印を付けて剪定の際に検討する。



炭疽病（写真）

* 降雨量が多いと、防除間隔2週間では薬剤の残効が切れてしまう場合があります。
防除間隔の考え方として、定期散布から累積降水量100mm前後に到達する前に特別散布（または、次回定期散布の前倒し防除）を行なう事で、病害の感染リスクが軽減されます。

次面もご覧ください。

りんご『炭疽病』 発生生態

- ①伝染源 ニセアカシア、クルミ等が近くにある園地では恒常的に発生しやすい。
- ②感染期 一次感染期：6月～7月（梅雨） 二次感染期：8月中下旬～9月
- ③潜伏期間 1ヶ月程度

「炭疽病」防除ポイントまとめ

- ①一次感染期（6/上～7/末 梅雨期）
 - ・ 定期防除の散布量は十分に
 - ・ むらなく防除する（散布死角がないか）
 - ・ 雨が多いときは特別散布が必要
- ②二次感染期（8/中～9/下）
 - ・ 発病果の除去と園外への持ち出し
 - ・ むらなく防除する（散布死角がないか）



新梢管理のポイント

- ① 新梢管理は6～7月上旬までに一度実施する。 7～8月は花芽分化・形成期に当たるため、この時期に葉を多く落とすと停止した芽（頂芽）が再伸長し、花芽分化が劣る。また、晩生種については9～10月の着色管理の時期にも実施する。
- ② 普通樹の骨格枝背面の徒長枝となりそうな新梢、長く伸長している新梢や冬季に切っておくべき枝を中心に切除する。骨格枝背面は全て切除すると骨格枝の日焼けを起こすため、適度に残す（30 cm～50 cmに1本残す）ようにする。新梢を切りすぎないように注意する。
- ③ 徒長枝の切り取りは、できるだけ基部から行う。基部を残して切ると残った部分から新たに、多数の徒長枝が発生したり、腐らん病の侵入源となったりする。

腐らん病の点検、除去を徹底しましょう。

仕上げ摘果は「6月末まで」を目標に実施しましょう